

平成18年食中毒発生状況の概要について

平成19年7月
厚生労働省食品安全部

1. 発生状況（事件数、患者数、死者数）

平成18年に国内で発生した食中毒事件数は1,491件（対前年 - 54件）、患者数39,026件（対前年 + 12,007人）、死者数6人（対前年 - 1人）であった。
また、患者500人以上の食中毒は6件発生した（前年は2件）。

2. 月別発生状況

食中毒事件の発生が最も多かった月は、12月の182件（12.2%）で、次いで11月の178件（11.9%）、8月の156件（10.5%）の順であり、秋～冬季に事件が集中し、10～12月の3ヶ月間の事件数が497件と年間発生件数の33.3%を占めていた。患者数でも、12月が11,763人（14.5%）と最も多く、10月から12月にかけて21,042人の患者が発生しており、年間の患者数の53.9%を占めた。また、夏季においても6月、7月に月に2,000人以上の患者が発生した。

3. 病因物質別発生状況

病因物質の判明したものは、事件数1,438件（96.4%）、患者数38,068人（97.5%）であった。病因物質別の事件数は、ノロウイルス（499件）、カンピロバクター・ジェジュニ/コリ（416件）、サルモネラ属菌（124件）、植物性自然毒（103件）の順で多かった。病因物質別の患者数は、ノロウイルス（27,616人）、カンピロバクター・ジェジュニ/コリ（2,297人）、サルモネラ属菌（2,053人）、ウェルシュ菌（1,545人）の順で多かった。

腸管出血性大腸菌による食中毒は、事件数24件、患者数179名で、血清型O157によるものが23件及びO26によるものが1件であった。

死者が発生した食中毒事件の病因物質は、植物性自然毒（死者3人、内きのこ2人、グロリオサの球根1人）、動物性自然毒（ふぐ毒、死者1人）、サルモネラ属菌（死者1人）、ウェルシュ菌（死者1人）であった。

病因物質別発生状況の年次別推移では、腸炎ビブリオ及びサルモネラ属菌は、事件数、患者数ともに、平成10、11年をピークとして減少傾向にある。細菌による食中毒では、近年、カンピロバクターが増加傾向にあるが、平成18年は前年に比べ事件数、患者数ともに減少した。

また、平成9年に病因物質としてノロウイルス（当初は小型球形ウイルス）を追加して以降、ノロウイルスを原因とする食中毒事件が事件数、患者数ともに増加傾向にあり、平成18年は、前年と比べて事件数が225件増、患者数が18,889人増と大幅に増加した。

4 . 原因食品・施設別発生状況

原因食品の判明したものは、事件数1,024件(68.7%)、患者数34,044人(87.2%)であった。

原因食品別の事件数は、その他 - 食事特定(551件)、複合調理食品(141件)、野菜及びその加工品(97件)、魚介類(80件)の順で多かった。

原因食品別の患者数は、その他 - 食事特定(22,290人)、次いで複合調理食品(7,194人)、肉類及びその加工品(950人)、野菜及びその加工品(787人)の順で多かった。

原因施設の判明したものは、事件数1,133件(76.0%)、患者数38,115人(97.7%)であった。

原因施設別の事件数は、飲食店(612件)、家庭(159件)、旅館(144件)の順で多かった。

原因施設別の患者数は、飲食店(15,869人)、仕出屋(9,622人)、旅館(6,793人)の順で多かった。

死者が発生した食中毒事件の原因施設は、家庭(死者4人)、仕出屋(死者1人)及び不明(死者1人)であった。

5 . その他

平成18年食中毒発生状況の詳細等については、厚生労働省食品安全部ホームページ「食中毒・食品監視関連情報」(<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/index.html>)で公開している。

食中毒発生時の行政対応について

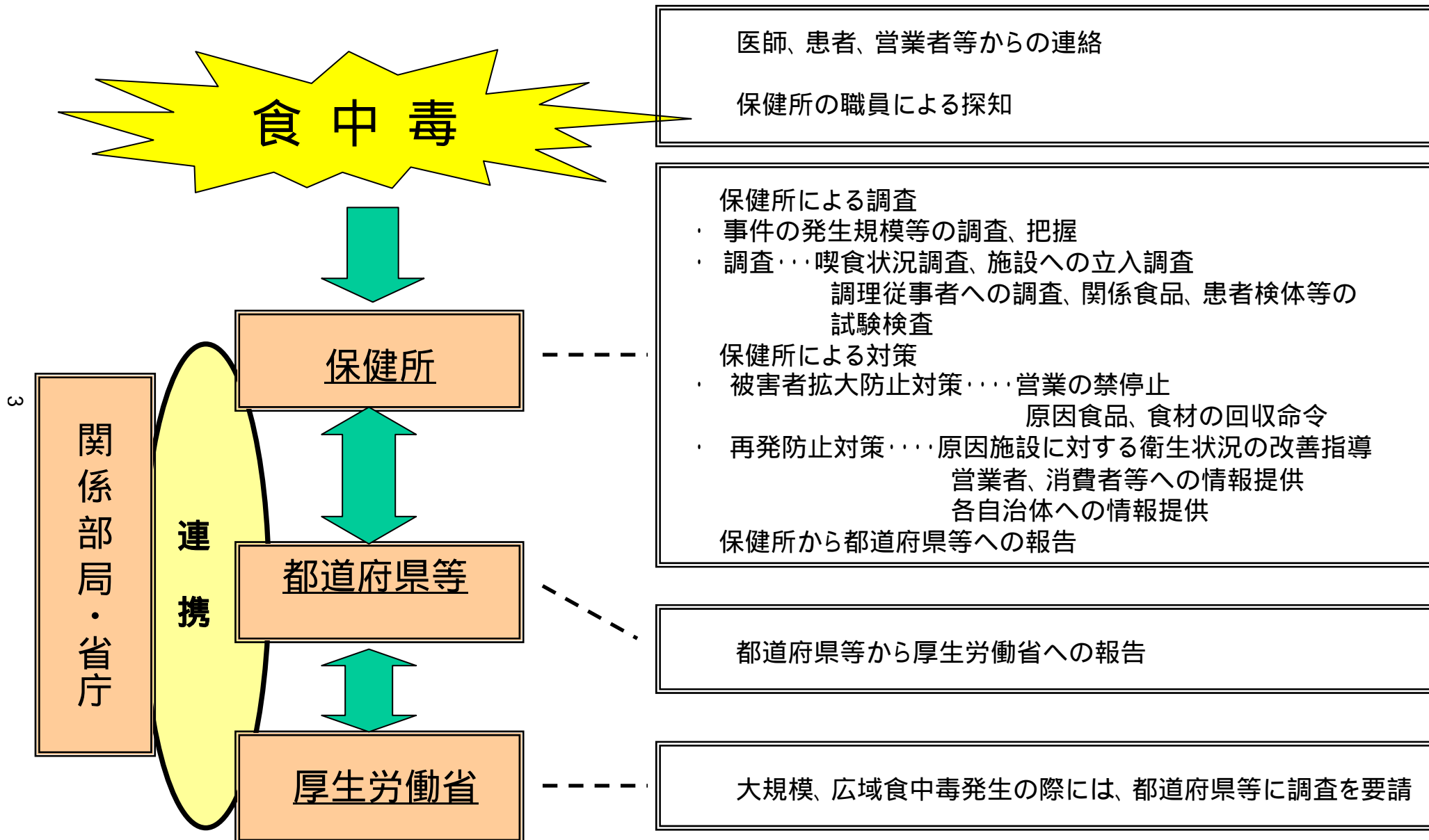


表1 年次別食中毒発生状況

年次	事件数	患者数	死者数
56	1,108	30,027	13
元年	927	36,479	10
6	830	35,735	2
7	699	26,325	5
8	1,217	46,327	15
9	1,960	39,989	8
10	3,010	46,179	9
11	2,697	35,214	7
12	2,247	43,307	4
13	1,928	25,862	4
14	1,850	27,629	18
15	1,585	29,355	6
16	1,666	28,175	5
17	1,545	27,019	7
18	1,491	39,026	6

年次	病因物質	事件数	患者数	死者数
14	サルモネラ属菌	465	5,833	2
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	447	2,152	0
	腸炎ピブリオ	229	2,714	0
	小型球形ウイルス	268	7,961	0
	その他・不明	441	8,969	16
15	サルモネラ属菌	350	6,517	0
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	491	2,642	0
	腸炎ピブリオ	108	1,342	0
	小型球形ウイルス	278	10,603	0
	その他・不明	358	8,251	6
16	サルモネラ属菌	225	3,788	2
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	558	2,485	0
	腸炎ピブリオ	205	2,773	0
	ノロウイルス	277	12,537	0
	その他・不明	401	6,592	3
17	サルモネラ属菌	144	3,700	1
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	645	3,439	0
	腸炎ピブリオ	113	2,301	0
	ノロウイルス	274	8,727	0
	その他・不明	369	8,852	6
18	サルモネラ属菌	124	2,053	1
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	416	2,297	0
	腸炎ピブリオ	71	1,236	0
	ノロウイルス	499	27,616	0
	その他・不明	381	5,824	5

表2 平成18年 死者が発生した食中毒事例

NO.	原因施設 都道府県	発病年月日	原因施設 種別	原因食品名	原因食品種別	病因物質種別	患者総数	死者総数	摂食者総数	性別、年齢
1	宮崎県	2006/3/19	家庭	ふぐの煮付け	魚介類-ふぐ	自然毒-動物性自然毒	1	1	1	男、60～69歳
2	国内不明	2006/4/8	不明	不明	不明	細菌-サルモネラ属菌	1	1	不明	女、5～9歳
3	宮崎県	2006/8/24	家庭	きのこ(ニセクロハツ)	野菜及びその加工品-きのこ類	自然毒-植物性自然毒	1	1	1	男、50～59歳
4	高知県 (高知市)	2006/8/29	家庭	グロリオサの球根	その他-食品特定	自然毒-植物性自然毒	1	1	1	男、70歳～
5	大阪府	2006/9/7	仕出屋	不明(9月7日の配食サービス弁当)	その他-食事特定	細菌-ウェルシュ菌	196	1	344	女、70歳～
6	北海道	2006/9/13	家庭	タマゴタケモドキ	野菜及びその加工品-きのこ類	自然毒-植物性自然毒	1	1	1	男、60～69歳

表3 平成18年 月別食中毒発生状況

		総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全体	事件数	1,491	97	73	80	81	120	109	150	156	128	137	178	182
	患者数	39,026	2432	1573	2152	2210	1284	2285	2740	1761	1547	2729	6550	11763
	死者数	6	-	-	1	1	-	-	-	2	2	-	-	-
うち細菌を 病因物質とす るもの	事件数	774	30	27	27	46	60	86	124	140	98	62	46	28
	患者数	9,666	497	221	139	682	822	1,031	2,216	1,526	1,152	909	284	187
	死者数	2	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-
うちノロウイル スを病因物質 とするもの	事件数	499	58	43	44	20	7	7	8	3	8	27	124	150
	患者数	27,616	1,914	1,307	1,960	1,403	215	922	256	162	235	1,475	6,220	11,547
	死者数	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-